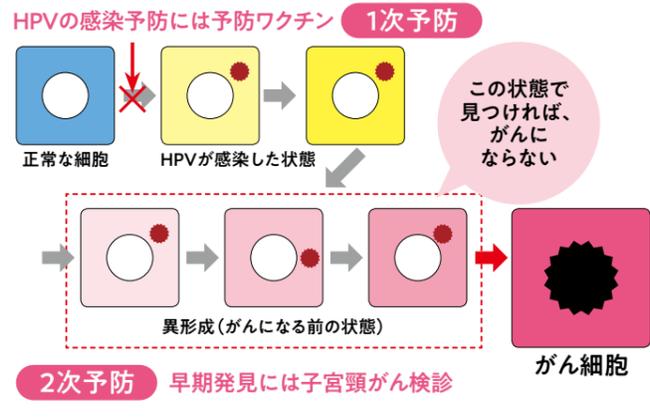


子宮頸がんは早期発見と予防が可能



子宮がん細胞診

子宮がんには、子宮の入り口にできる「子宮頸がん」と子宮の体部にできる「子宮体がん」があります。当科では、本会内や都内の医療機関で子宮がん検診を受診された方の検体（年間約26万件）を検査しています。そしてそのおよそ0.3%に異常があり、残念ながら0.05%は浸潤がんの状態で見ついています。子宮頸がんは30～40代に多く、若い世代での増加が大きな問題となっています。HPV（ヒトパピローマウイルス）の持続感染を起因に、「異形成」という前がん状態を経て浸潤がんへ進行することがわかっており、この「異形成」の段階で見つければ、ほぼ完治が望めるといわれています（左図）。〈関連記事P20～21〉

こんにちは!

検査研究センターです!

本会の検査研究センターの仕事をご紹介します。

母子保健検査科



母子保健検査科の業務は大きく分けて3つです。

1つ目は子宮がん検診の細胞診検査、2つ目は病理組織検査、3つ目は病原体遺伝子検査です。今回は、本会の母子保健検査科が担当しているこれらの検査をご紹介します。

当科のスタッフは、細胞検査士が18人と臨床検査技師が2人です。

繁忙期には事務職員6人が加わり、総勢26人の大所帯となります。ちなみに26人中22人が女性です。常勤の細胞診専門医2人、非常勤の細胞診専門医1人と病理専門医2人の指導を受けながら業務に当たっています。

喀痰細胞診

肺がんには、肺の入り口に近い部分に発生する肺門型肺がんと肺の奥の方に発生する肺野末梢型肺がんがあります。肺門型は気管支の中にとどまっていたり、太い肺動脈と重なったりするので、X線写真で見つけることは難しいのですが、喀痰細胞診で痰に交ざっているがん細胞を見つけることができます。

検査の際は、ご自宅で専用の容器（右写真）に採痰し、ご持参いただきます。

肺門型はヘビースモーカーに多いので、該当者は定期的に喀痰細胞診を受けることで早期発見が可能です。〈関連記事P4～9〉

喀痰細胞診用の採痰容器



ミクロトームによる薄切作業の様子



病理組織検査

病理組織検査では、本会の精密検査センターからの子宮・胃・大腸・乳腺の検体（年間約5,800件）と都内の医療機関から郵送されてくる検体（年間約1,200件）を検査しています。

病変の一部から採取した組織片をホルマリン固定した検体が検査室に届きます。

検査室では、ミクロトームという装置で3ミクロンに薄切した切片をスライドガラス上に載せ、染色した病理組織標本を作製します。病理組織標本は病理専門医が判定します。

細胞検査士による検査風景

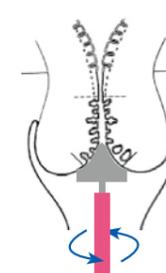


細胞診検査

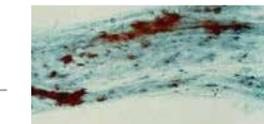
細胞診検査では、検査の大部分を占める子宮がん検診の「細胞診」(右図)の他に、肺がんの早期発見を目的にした「喀痰細胞診」や、膀胱がんとの関連が示唆されているオーラミンなどの化学物質を扱う方を対象にした「尿細胞診」なども実施しています。

子宮頸部細胞診

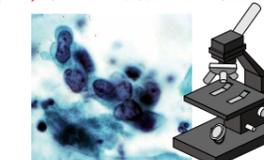
産婦人科外来で細胞を採取



スライドガラスへの塗抹



検査室で顕微鏡による検査



受診者から採取した細胞をスライドガラスに塗り、アルコール固定後に染色された標本を、細胞検査士の認定資格を持つ検査士が顕微鏡で観察し、異常細胞を見つけ出します。

検体の分注作業



☑ 病原体遺伝子検査

当科ではPCR法によるHPV・DNA検査を行っています。

先にHPV感染と子宮頸がんとの関連はお話ししましたが、HPVには100種以上の型があり、その中でも子宮頸がんとの関連が強い14種類(16・18・31・33・35・39・45・51・52・56・58・59・66・68型)が高危険群とされています。

コバス4800により
遺伝子の
増幅・検出を行う

検査室ではコバス4800という遺伝子増幅・検出装置を用い、高危険群の16型・18型・その他の高危険群(12種類をまとめて)の3パターンで検出しています。本会の女性検診センターと精密検査センターから届く年間約2,300件の検体を扱っています。HPV陽性率は約9%です。

病原体の検出では、その他に性感染症(Sexually Transmitted Infections: STI)の病原体の一つであるクラミジアと淋菌の遺伝子検査も行っています。



当科では、細胞検査士資格を持つ職員が、

より精度の高い検査結果の提供をめざし、業務に当たっています。

また職員の技能維持やスキルアップのため、月1回の症例検討会、ブラインドテスト、各種学会や講習会などへの参加、学会等での発表の他、各大学や養成所での教育も行っています。

今後も、より質の高い検査をお届けできるよう職員一同、取り組んでいきます。



小児健康相談室のご案内

検診で異常を指摘された子どもを対象に、専門医によるフォローアップを行っています

学校検診で異常を指摘されたけれど、近くに専門医がない。軽微な異常で治療は必要ないけれど、定期的な経過観察は必要。「小児健康相談室」では、そうした子どもたちを対象として、専門医による経過観察、生活指導を行っています。

検査や診断には費用がかかります(保険診療)。本会で学校検診を受けた方は、検査・検診時のデータを用いて診療や相談が可能です。

前田美穂先生による

『貧血電話相談室』

養護教諭・保健師・看護師からの相談をお受けします(無料)

開催日: 第1水曜日 14時半~15時半

	腎臓病	心臓病	貧血	脊柱側弯症	肥満・コレステロール	思春期やせ症
担当医	村上陸美 日本医科大学 名誉教授	浅井利夫 東京女子医科大学 名誉教授	前田美穂 日本医科大学 名誉教授	南昌平 聖隷佐倉市民病院 名誉院長	岡田知雄 神奈川工科大学 応用バイオ科学部教授	鈴木真理 跡見学園女子大学 心理学部特任教授
外来日	第3木曜日 午前	第1木曜日 午後	第1水曜日 午後	第2月曜日 午後 第4金曜日 午後	第4月曜日 午後	第2木曜日 午後



問い合わせ・申し込み

公益財団法人 東京都予防医学協会 地域・学校保健事業部
東京都新宿区市谷砂土原町1-2

03-3269-1131